

	まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ 全体まとめ		
地区	蒲郡北地区	回数	第3回
日時	令和元年9月29日（日） 13：30～16：30		
参加者数	33名		

1. 再配置プラン案について

1) 全案に共通すること

【将来を見据えた再配置の検討について】

現状の課題だけでなく将来の社会の変化も見越して、今後の見通しや基本条件となるものは何かを想定し、再配置を考えていく必要があるのではないか。

- ・ プランを考察する際の前提を再考する必要があるのではないか。人口減少だけでなく、社会変動も見越して蒲郡市としての見通しや基本条件となるものは何か？を確認したうえで、それに適応するためのプランとしての再配置を考える必要があるのではないか。
- ・ 30年後の社会の変化を全体として考えていく必要があるだろう。例えば働き方改革で早く仕事を終える保護者が夕方から子どもの部活動を指導するなどができるようになるかもしれない。そうすることで教員の負担軽減につながるという変化も生じるかもしれない。現状の課題だけで、学校が遠くなるとか学区をどうするか？を議論するのではなく、全体の見通しや将来像を想定した再配置を考えていく必要があるのではないか。

公共施設がなくなることによってコミュニティが崩壊するという危惧はあるが、いずれ新しいコミュニティは形成されるので一時的な現象とも言える。将来的には合理化は必要であり、子どもや孫のことを考えて将来を設計する必要がある。

- ・ 小学校や公民館などの公共施設がなくなると、コミュニティが崩壊するかもしれないという危惧もある。しかしいずれ新しいコミュニティは形成されるだろうし、一時的な現象ともいえる。
- ・ 今のシニア世代からすると、自分が通った学校がなくなるとするのはとても嫌がるが、今はそういう時代ではないので、今から30、40年後の子どもや孫のことを考えて将来を設計していく必要がある。
- ・ 将来的には何かを合理化（統廃合）しなければならない必要性は感じる。

【施設の複合化について】

小学校や公民館や保育園などの施設は複合して、多世代の交流が生まれるのが望ましい。合わせて、地域学校協働本部の設置など、ソフト面での整備も必要である。

- ・ 小学校や公民館や保育園などの地域施設は複合して、多世代の交流が生まれるのが望ましい。
- ・ 学校と公民館の連携を考えると、ハード面の隣接だけでなく、ソフト面の整備も必要。豊田市浄水の例だと、PTAはなく地域協働本部が設置され、学校の中に地域と連携を取るコーディネーター的な役割の人がいる。そのような整備も行っていく必要がある。

【立地場所について】

現状の立地がベースになっているが、他の場所に建設することは考えられないか。

- ・ 現状の立地がベースになっているが、他の場所に建設する案や予定はないのか？

【学校・学区について】

小中学校の再編を前提としているのであれば、そのことをちゃんと説明すべき。

- ・ プラン案をみて小中学校の再編を前提としていたと感じた。そうならちゃんと説明すべき。

学区を越えた活用など、小規模学校の役割を活かしていくことも考えられる。少人数学校にもメリットがある。

- ・ 小学校は小規模にもメリットがある。
- ・ 西部小学校は学年の児童数が少ない分、横（学年内）ではなく縦（学年間）割の班活動を行うなど工夫しているので、少人数学校のメリットも評価するのが良い。西部小学校は、そのまま維持してもよいのではないか。
- ・ 児童数の少ない学校のメリットや役割もあるはず。例えば、特殊支援が必要な児童や不登校の児童へのケアが充実するなど。例えば、西部小が学区を越えて市内の支援が必要な子どもを集めるなど、小規模学校の役割を活かしていく方向も考えられるのではないか。

小学校はコミュニティの基本単位であるので、できるだけ統廃合すべきではない。コミュニティへの影響も考慮して小学校の再編を議論すべきである。

- ・ 小学校は地域住民にとってコミュニティの基本単位になっているので、できるだけ統廃合すべきではない。小学校の再編は地域コミュニティへの影響も考慮して議論すべき。

祭りを中心とした地域のつながりの観点から、行政区に配慮した学区を考えるべきである。

- ・ 祭りを中心とした地域のつながりを育んできている点から、行政区に配慮した学区割を考えるべき。

学区は通学の安全性を重視して再編しても良いと思う。

- ・ 学区はバイパスなど状況変化に合わせて、通学の安全性を重視して新たに編成しても良いと思う。

中学生は地域とのつながりが小さくなるので、中学校を統廃合して地域から離れることについて問題は少ない。

- ・ 中学生は地域とのつながりが小さくなるので、統廃合して地域から離れて通うことの問題は少ない。

小学校と中学校を複合化する案があるが、小中一貫校とする可能性はあるのか。

- ・ 小学校と中学校の複合化案はあるが、小中一貫校とする可能性はあるのか？そのような方針を蒲郡市として持っているか？

【公民館について】

公民館は歴史文化の継承やお祭りの地域活動の拠点であるため、それぞれの地区に残すのが良い。

- ・ 公民館は地域における歴史文化の継承、お祭りを実施する際の拠点ともなっている。公民館が地区からなくなると、そうした機能の低下・後退につながるので、地区の公民館はそれぞれの地区に残すのが良い（集会所もお祭りには使われている）。
- ・ 公民館の配置について、地域活動の内容からいえば、各地区毎にあるべき。

閉まっている時間が長い公民館もある。自由に出入りできるフリースペースがあると、中高生や高齢者が集う場所になる。

- ・ 現状、閉まっている時間が長い公民館もある。公民館の機能充実として、自由に出入りができ、勉強やおしゃべりをしたり、食事などができるフリースペースが確保されるようになると、中高生だけでなく、高齢者が集う場所ともなる。（この夏休みは北部小学校で北部公民館を使いましょう、というような取り組みが行われていた）公民館が第二の小学校みたいになるとよい。

将来的に施設を集約していくことを踏まえ、今後の公民館のあり方については豊田市の交流館のような先進事例も参考にすべきである。

- ・ 豊田市では一般的な公民館施設を「交流館」としており、その目的を明確化している。将来的に施設を集約化していくことをふまえ、こういった先進事例の考え方やあり方を評価の視点に加えた方がよい。

【子育て環境（保育園・児童館・児童クラブ）について】

住みたくなる地域になるためには、縮小よりも多様なサービス提供し、子育て環境を整えることが大事である。

- ・ 他所の地域から来たくなる地域になるために、子育て環境が整っていることが大事。縮小よりも多様なサービスがあることが大切ではないだろうか。

現在は北部小学校、西部小学校周辺の道路の交通量が多く、子どもの通学や保育園のお迎えの際に危険である。

- ・ 西部小の周りには自動車の抜け道があり、交通量もスピードもあり子どもが危ない。
- ・ 北部小の北側にも東西方向に交通量の多い道路があって危ない。
- ・ 北部小学校の裏の道は通行止めの際に大型トラックがう回路に使用したり、夜間はスピードを上げて走行しているなど危険視されてはいるが、23号が開通すれば解決するだろうから、将来的な問題とはならないと思う。
- ・ 道路状況の危険個所として、北部保育園の周辺は、普段は安楽寺の駐車場を使わせてもらっている。園児の帰宅時間（16時頃）になると、送り迎えの保護者と、通り抜けをしようとする一般車両とで混雑することがある。

西部保育園と中部保育園の駐車場については、不便を感じるときもあるが、大きな問題とはなっていない。

- ・ 西部地区は公民館や神社を使っているので雨の日は不便を感じるが問題とはなっていない。
- ・ 中部保育園は、駐車場が少ないことが指摘されるが、近隣の商業施設や市役所の駐車場も利用しているし、送り迎えも時間にバラツキがあることから、大きな問題とはなっていない。

公園の中にあるちゅうぶ児童館の維持は利便性の面からありがたいが、他の施設が集約する中でちゅうぶ児童館だけが独立してしまうのは残念である。

- ・ ちゅうぶ児童館の維持は小さいお子さんを持つお母さん、保育園、小学生も利用されるのでありがたいです。
- ・ 公園の中に児童館があることは利便性の点からも評価できるので、そのままに残したいと思うが、子ども向けの施設として、ちゅうぶ児童館だけが独立してしまうのが残念。

学校からの移動の際の危険をなくすため、放課後児童クラブは小学校の敷地内に設置すべきである。

- ・ 放課後児童クラブは小学校に併設される必要性が強い。西部小児童は校外に移動して危ない。
- ・ 全小学校の敷地内に児童クラブを設置するのは、ママが助かります。

【機能廃止後の施設の活用について】

再配置によって使われなくなる施設が今後どのくらい使うことができるのかを示してほしい。そのうえで、使われなくなった公共施設の建物や敷地を活用し、生涯学習施設、高齢者向けの活動センター、交流センター、市民プールや体育館など、地域の魅力づくり・にぎわいづくりのための新しい施設を設置することも検討してよいのではないか。

- ・ 再配置の結果、使われなくなる公共施設について、それぞれの耐用年数などを示し、今後どの位使うことが出来るのか？を示してほしい。そのうえで、地区にあるとよい機能（例えば生涯学習施設にするとか、元気なシニアの方が市民活動などを行っていくための活動センターなど）を与えられると再利用していけるのではないかな。
- ・ 機能廃止後の公民館がそれぞれの地区で高齢者にとっての地域拠点となる期待はある。例えば、宮成公民館で行っている認知症予防の運動などが考えられる。西部でも高齢者の方が多いので、そういったニーズはあるのではないだろうか。
- ・ ただ施設をなくすだけではなく、使われなくなった公共施設の敷地を活用し、地域の魅力づくり・にぎわいづくりのための新しい施設を設置することも検討してよいのではないかな。市民プールや体育館などの設置も検討できればよいのではないかな。
- ・ 蒲郡市内全域で、小中一貫校を実現すれば、6から7つに統合することができる。そうすることで教員などの人員の確保ができるとともに、跡地を市直営の交流センターにする（不登校の児童へのケア、外国人対応）などができるようになるのではないかな。

2) A案「通学の安全を確保し、学校規模の適正化を図るプラン」

【期待すること】

国道247号を学区境界とすることで、交通事故のリスク低下につながる。

- ・ 247号を児童が通学で行き来するのが危険だと感じているので、それが回避されることは交通事故のリスク低下につながり評価できる。

【不安なこと】

西部小学校を国道247号で分離するのは、行政区との不一致が生じコミュニティへの影響が大きいので問題だ。道路の安全性については歩道橋などで解決してもらいたい。

- ・ 西部小学校を分離することは、地域コミュニティへの影響も大きくなり問題がある。
- ・ バイパスで学区を分けることは、行政区の文脈が無い学区編成となるので、具現化するには困難だと思う。
- ・ 西部小を国道247号を挟んで分離する案であるが、町内会等の行事の関係もあるため行政区を跨いで分離しないほうがよい。実際には西部小学校区の内、国道247号を挟んで南側エリアは人数も少ないため、北側と一緒にしないと子ども達が可哀そう。交通量の多い国道247号における道路の安全性については歩道橋等で解消してもらいたい。

中学生よりも通学距離が長くなる西部小学校の児童が出てくるため、対策が必要になると思う。

- ・ 西部小学校の児童が、中学生より通学距離が長くなる子も出てくる。通学も含め、不便・不安を感じないための対策が必要になると思う。

3) B案「北部地区と西部地区の新たな交流拠点をつくるプラン」

【期待すること】

施設面積の縮減と小学校・中学校の児童・生徒数の確保という両面で効果がある。年月は必要だが理想であり、検討する価値があるだろう。

- ・ 施設面積の縮減と小学校・中学校の生徒数の確保という両面で効果があり、評価できる。
- ・ 理想ではあるが、年月を必要とする案である。時間をかけて検討する価値はあるのではないだろうか。

小学校・公民館・保育園が同じ敷地に移れば、地域とのつながりも保つことができる。

- ・ 公民館や保育園も合わせて同じ敷地に移れば、地域とのつながりも保つことができる。
- ・ 保育園と小学校が一か所に統合されることは評価できる。

統合する小学校・中部中学校とちゅうぶ児童館の距離が近くなるのは、子どもにとっても放課後の遊び場が近くなるので良い。

- ・ 中部中学校（北部小学校、西部小学校の統合）とちゅうぶ児童館の距離が近くなるのは、子どもにとっても放課後の遊び場が近くなるので良い。

【不安なこと】

西部小学校地区と北部小学校地区の公共施設がすべて使われなくなるので、その後の活用方法がないか。

- ・ 西部小学校地区と北部小学校地区の公共施設がすべて廃止（使われなくなる）ので、その後のうまい使い方がないか？

4) C案「地域の交流拠点をつくるプラン」

【期待すること】

A案やB案よりも地域の状況が活かされた案であり、現在の状況を踏まえればまともな案だと思われる。

- ・ 公共施設を再編していくことを時間軸上に置けば、現在の状況を踏まえればまともな案だと考える。AやBよりは地域の状況が活かされた案である。

5) D案「地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン」

【期待すること】

小学校は地域の核であり、3つの小学校を維持することで伝統的な地域のつながりを保つことができる。小学校が保育園や公民館と一体になることも評価できる。

- ・ 3つの小学校が維持され、それぞれに地域施設と一体になることが最も評価できる。
- ・ 各々の小学校区が保てることは、伝統的な地域のつながりを保つことにつながるので良い。
- ・ 公共施設の再編計画の必要性は十分に理解してはいるが、小学校は地域の活性化の核となる施設であり、西部小でいえば現状で1,500人が生活しておりこれらの人達の地域性を維持していくことも必要だと考えている。

地域で子どもを育てる環境をつくるという教育委員会の方針を具現化できる案である。そういった地域をつくるには小規模校のほうが取り組みやすいと考える。

- ・ 地域で子どもを育てるという環境をつくるという理想は教育委員会の方針とも一致しており、その具現化をするにはD案が良い。高齢者と子どもの割合から考えても、高齢者が子どもを見守ることができるので理想的である。
- ・ 教育委員会の資料でもあったように、教育の中で育てていくものは、知識の詰め込みではなく、主体的な人材づくりであり、その環境づくりとなる「地域づくり」が大事であるとの理由からも、そういった地域づくりは小規模校の方が育みやすいのではないかと考えている。

【不安なこと】

小学校の統合がないため、各小学校の児童数の確保が難しい。

- ・ 小学校の統合がなく、各小学校の児童数の確保が難しい。

【提案】

中央小学校でも保育園に加えて公民館も一体にしたい。

- ・ 中央小も公民館と保育園とを一体にしたい。B案参照。(D案の提案)

小学校区のコミュニティを維持するため当面はD案で再編し、人口減少を確認しながら、コスト負担軽減のため将来的にはB案を目指してはどうか。

- ・ 当面(10～20年)はD案で再編し、将来(20～30年後)は人口減少を確認しつつB案を目指す案がよい。小学校区を中心とした地域コミュニティを維持しながら、将来のコスト負担を軽減できる。

6) E案「充実した教育の拠点と世代間交流の場をつくるプラン」

【期待すること】

教育、防災、地域のつながりの面から、総合的には良いプランである。

- ・ 教育、防災、地域のつながりの面から、総合的には良い方向と考える。

もともと保育園は地区毎に通う状況ではないため、北部保育園と西部保育園の統合は問題ないと思う。

- ・ 保育園の統合は問題ないと思う。元々地区毎に通う状況ではなく、その後小学校で同じになればよい。

施設面積の縮減という点では、最も効果が期待できる。

- ・ 施設面積の縮減という点では、最も効果が期待できる。

7) A案・B案共通（中央小学校・中部保育園・公民館機能の集合）

【期待すること】

中央小学校区で小学校・保育園・公民館が一か所に複合すると地域の交流が生まれてよい。

- ・ 中央小学校区は現状で保育園や公民館が離れているが、一か所に複合すると地域の交流が生まれてよい。

8) A案・B案・D案共通（中部保育園の中央小学校敷地への集合）

【不安なこと】

中部保育園が駅から遠くなってしまうと不便になると思う。

- ・ 中部保育園は駅から近い良さがあるので、遠くなってしまうと不便になると思う。

9) A案・B案・E案共通（北部地区と西部地区の施設の集合）

【期待すること】

小学校で複数クラスができる規模になるのは、教育環境として良いと思う。

- ・ 小学校の組み分けができるような規模になるのは、教育環境からして良いと思う。

【条件付きの肯定意見】

ほんとうに人口や子どもが減るようなら、西部小学校と北部小学校の統合はやむを得ない。

- ・ 長期的にみて本当に人口や子どもが減ってきたならば、B案のように西部小と北部小を統合するのはやむを得ない。

【不安なこと】

西部小学校がなくなると、地域のつながりをなくすことや西部小学校区の子供の減少を招く。子育て環境を整えることで住みたいと思える地域づくりをしたい。

- ・ 少人数だからといって西部小学校をなくすのは長年の地域のつながりをなくしてしまうことにつながると思う。
- ・ 西部小学校をなくすことは、かえって西部小学校区の子供の減少を招く。子育て環境を整えることで、他の地域から住みたいと思える地域づくりをしたい。

公民館は地域の拠点なので、北部公民館と西部公民館の統合は無理があると思う。西部地区の施設と北部地区の施設が統合する場合、地区の住民が不便と感じるのではないかと心配である。

- ・ 公民館は行政区毎の地域の拠点としての機能があるので、北部小学校の敷地に西部公民館まで複合することには無理があると思う。（B案も同様）
- ・ 西部地区の施設を北部地区と統合する案になる場合、坂本地区の住民の方は、どれほど不便を感じるだろうか？
- ・ 現状も距離の遠さという不便さはあるが、将来的には、公共施設がないことで坂本地区に若い人が住まなくなるといった心配がある。より便利な方（まち）に人は流れていくのではないかと感じる。

10) A案・C案・E案共通（中部中学校の維持）

【不安なこと】

今のままでは中部中学校の生徒数の確保が難しくなる。

- ・ 中部中学校の生徒数減少の解決にはなっていない。中部中学校の生徒を確保するのが難しいだろう。中学校の生徒減を考えると他の案の方が良いのではないかと。

11) B案・D案共通（中部中学校の蒲郡中学校への集合）

【期待すること】

中部中学校を蒲郡中学校に統合させるのは元に戻ることであり、また中学生になれば自立し地域とのつながりも少なくなるので、問題ない。

- ・ 中部中学校と蒲郡中学校の統合は元に戻る事なので、可能だと思う。
- ・ 中部中学は蒲郡中学に統合することに問題は少ない。中学生は地域とのつながりが少ない。もともと、蒲中から分離した経緯がある。
- ・ 中学校になると地域の見守りよりも自立の年代となるため、中部中学校と蒲郡中学校の統合は問題ないとする。

今でも蒲郡中学校が近いのに中部中学校に通っている生徒もいる。中学生ならば自転車通学はそれほど苦労もないと思う。

- ・ 現在でも蒲中が近いのに中部中に通っている生徒もいる。
- ・ 元々分かれたものなので、統合することに違和感がない。中学生の自転車通学は、それほど苦労でもないだろうし、統合への懸念（障害）ともならないだろう。

中学校の統合で職員数が確保できるようになり、学校教育のサービスが充実する。

- ・ 中学校が統合されることによって、職員数が確保できるようになる。それによって教員など人材確保ができ、益々高度化する学校教育へのサービスが充実し、生徒への教育機会も増えることが期待できる。

【不安なこと】

中部中学校と蒲郡中学校は生徒数の規模から統合する必要はない。

- ・ 中部中学校と蒲郡中学校は人数の規模から統合する必要はない。
- ・ 中部中学校と蒲郡中学校の統合には疑問がある。統合しなくても、生徒数は保てる。

中部中学校を蒲郡中学校に集合すると、通学距離が長くなるうえに帰りは上り坂になり、交通面や防犯面で心配だ。

- ・ 中部中学校を蒲郡中学校に集合すると、北部地域の人達は、現在よりも通学距離が長くなる。距離的には国の基準内かもしれないが、北部地域は標高的にも高く、帰りは上りとなるため、自転車でも通学が大変不便であることと、通学距離が長くなることで交通面や防犯面での安心安全が低下するのではないか。

蒲郡中学校の生徒数が多くなりすぎないか不安である。

- ・ 昔は 1 つだったのが統合への違和感はないが、逆に生徒数が多くなりすぎないかが少し不安（1 学年 2 クラス位は妥当だが、蒲郡中学校の生徒数の変化が不明）。

【提案】

塩津小学校が近いのに中部中学校に通っている生徒もいる。中学校の統合の際には塩津中学校への一部統合も検討すべきである。

- ・ 中学校の統合の際には塩津中への一部統合も合わせて検討すべき。塩津中が近いのに中部中に通う生徒もいる。

12) C 案・E 案共通（中央小学校区の再編、中部保育園の現地維持）

【期待すること】

中央小学校は南部小学校から分離した経緯から、南部小学校に集合することへの抵抗感は西部小学校や北部小学校よりは少ないのではないか。（ただし西部小学校へ集合することへの抵抗感はあるかもしれない。）

- ・ 中央小は元々蒲郡南部小学校の児童数増加により新設された経緯からすると、蒲郡南部小学校に集合することでの地域の抵抗感は、西部小学校や北部小学校よりは少ないのではないか？（ただし西部小への集合はこれにはあてはまらない。）

中央小学校の再編は、津波等の防災面では良いと思う。

- ・ 中央小学校が西部小学校敷地に統合することは、津波等の防災面では良いと思う。

中部保育園は人気があるので、存続して規模を拡大することで、サービスも拡充できないか。

- ・ 中部保育園は人気があるので、存続していて良い。保母さんが不足していることが心配なので、サービスを拡充する面で、ここを中心に規模を拡大することが考えられないだろうか。

【不安なこと】

中央小学校の再編は地域コミュニティへの影響が大きい。地区が空洞化して人口減少などが加速化しないか心配。

- ・ 中央小学校が分離すると地区が空洞化してしまうのではないだろうか。
- ・ 中央小を分離することは、地域コミュニティへの影響も大きくなり問題がある。
- ・ 中央小学校地区の公共施設がなくなり、地区として空洞化してしまうのではないか。小学校跡地が有効利用できれば良いが、人口減少などが加速化しないか心配。

行政区の区分けが難しい。児童の通学の距離も考えて区割りをする必要があるだろう。

- ・ 蒲西、蒲南など行政区の区分けが難しい。児童の通学の距離も考えて、範囲・区割りをする必要があるだろう。

【提案】

中央小学校跡を市民プールとして活用できないか。

- ・ 中央小学校跡を市民プールに活用することも考えられるのではないだろうか。

2. 評価の視点について

① 地域での活動・交流のしやすさ

小学校、児童館、公民館、保育園等、地域施設がコンパクトに集約されることで、世代間交流が促進され子育てもしやすくなる。

- ・ 小学校区と公民館や保育園など地域施設が一緒にあると、世代間交流が生まれ、子育てもしやすくなってよい。
- ・ 小学校、児童館、公民館、保育園等、地域施設がコンパクトに集約されるのは、交流が促進されるという面では良いことである。

地域の交流拠点として、公民館は地区ごと（北部・西部など）に配置すべき。学校との複合は多世代間の交流の面では良いが、学校の統廃合に準じて地区から公民館がなくなってしまうと交流がしにくくなる。

- ・ 地域の交流拠点として、公民館の配置は地区毎にあるべき。学校との複合は多世代間の交流の面では良いが、統廃合に準じて地区から公民館がなくなってしまうと、かえって交流しにくくなる。

② 学校教育環境のあり方

小学校の通学距離は近いほうが良い。

- ・ 小学校への通学距離は近いに越したことはない。

小学校と地域コミュニティとのつながりは重要な視点である。

- ・ 小学校と地域コミュニティとのつながりは大切だ。西部小は3年生が地元みかん農家で学び、地域の人が相撲大会の指導を行っている。

中学生は小学生よりも地域とのつながりが少ないため、中学校の統合のほうがコミュニティへの影響も少ない。中学生は自立した年代になるので、地域とのつながりよりも学校内の教育環境の充実の視点で判断すべきである。

- ・ 中学生は地域とのつながりが少ないので、中学校の統廃合は問題が少ない
- ・ 統廃合によっておこる地域コミュニティへの影響の面では、小学校よりも中学校の方が問題がすくない。中学生は自立した年代になるので、地域とのつながりよりも学校内の教育環境の充実といった面で判断できる。

③ 子育てしやすい環境づくり

保育園と小学校、児童クラブと小学校が一緒にあるのが望ましい。交通事故などの心配も少なくなる。

- ・ 保育園が小学校と一緒にあると子育てしやすい。
- ・ 児童クラブは小学校に併設しているのが望ましい。交通事故など子どもの移動の心配が少ない。

低年齢児保育の実施は高く評価できる。

- ・ 市で実施されている低年齢保育についてはとても評価している。

施設が集約され、多機能化することで多様な協働が生まれ、保育士不足の解決にもつながるのではないかな。

- ・ 保育士の人数が少なく、個々にパンク状態であるのは目に見えている状況である。
- ・ 必ずしも保育士じゃないとできない事以外は、地元の高齢者（じいちゃん、ばあちゃん）などがボランティアとして手伝うような仕組みがあっても良いのではないかな。施設が集約され、多機能化することでそういった協働が生まれるのではないかな。

④ 高齢者の居場所づくり

高齢者向けの施設はできるだけ利用者の近くにあることが望ましい。

- ・ 公民館など高齢者の居場所になる施設は、利用者からできるだけ近くにあるのが望ましい。

高齢者ボランティアを学校、保育園に派遣することで交流が生まれるのではないかな。

- ・ 高齢者サロンで花壇づくりやボランティアを行う。高齢者ボランティアを地域の小学校に派遣することで交流が生まれるのではないかな。（※保育園も同じ）

機能廃止後の建物を高齢者の拠点として活用できれば、施設の統廃合についても肯定的に捉えられる。

- ・ 機能廃止後の建物の活用があれば、高齢者を中心とする拠点となりうるため、ポジティブに捉えられる面もある。

元気な高齢者も多く活用できる人材なので、「高齢者の居場所づくり」という言葉は使わないでほしい。

- ・ 「高齢者の居場所づくり」という言葉は、使わないでいてほしい。元気な高齢者も多いので、もっと活躍できる資源（人材）として捉えてほしい。

⑤ 安全・安心

距離以外にも、防犯、交通安全なども踏まえた通学時の安全性も評価してはどうか。

- ・ 「通学時の防犯面の評価」も追加してはどうか。
- ・ 単純な通学距離で評価するのではなく、防犯や交通の安全性をふまえ地域の実情を加味した評価としてもらいたい。

⑥ 利便性の確保

小学校、児童館、公民館、保育園等がコンパクトに集約されるのは、利便性の面からも良い。

- ・ 小学校、児童館、公民館、保育園等、地域施設がコンパクトに集約されるのは、施設の利便性からみても良いことである。

公共施設が徒歩圏内にないことで地域の魅力が減ることがないように、施設配置のバランスも視点として重要である。

- ・ 公共施設が徒歩圏内にないことで、移住・定住の魅力を妨げることになっていないか。
(あるいは「公共施設の配置の地域間のバランス（ばらつき）は適切か?」)

各地区を結ぶバスを運行することで、小学生の通学や高齢者の施設利用などの際の利便性を確保できないか。

- ・ 小学校児童の通学や、高齢者の行事参加、公民館利用に使えるバスの運行などを行う。
- ・ 中央～西部～北部を結ぶコミュニティバス、スクールバスを運行する。

3. 其他のご意見（付帯事項等）

社会変化に伴い、住民の負担が増えている地区もあり、学区の改編に合わせて行政区の見直しも必要になるかもしれない。地域活動の担い手を育てること、地域への意識を高めることなど、今から将来に向けた対策を講じていく必要もあるだろう。

- ・ 社会の変化という点では、住民の減少で負担が増えているという地区もあり、総代区（行政区）の改編や規模の見直しも学区の改編と合わせて、今後必要になってくるかもしれない。
- ・ 選択肢がなくなったところで成り行きに任せるのではなく、総代区の見直しも含め、今から将来に向けた対策を講じていく、地域への意識を高めていく必要もあるだろう。
- ・ 市民活動を運営する一般の住民が少ない。参加者は多いし、アイデアを出す人はいるが、実施する人がいないのが地域活動のネックになっている。ハード面が整備されても、それを運営していく人がいなければ活用されないので、まずは地域活動の担い手となる人を育てていく必要があるだろう。

市街化調整区域のため新しく人が入れない地区もある。こうした地区のあり方についても考える必要があるだろう。

- ・ 坂本地区のように（公共施設が）遠いからという理由で人が減っていくような場所もあれば、北部地区の裏の道以降は家を建ててはいけないという調整地区もあり、新しい人が入りたくても入れないような場所もある。こうした居住区のあり方（宅地造成地区など）についても考えていかないといけないと思う。

防災、教育、地域のつながりなど、総合的にまちづくりのプランを考えなければならないため、公共施設の配置だけで将来を考えるのは難しい。

- ・ 地域全体まちづくりのプランを考えなければならない。防災、教育、地域のつながりなど全てがつながっており、公共施設の配置だけで将来を考えるのは難しい。

蒲郡北地区だけで判断するのではなく、塩津地区や東部地区との関連も含めて再編を検討した方が良いと感じた。

- ・ 議論の前提条件からはずれてしまうが、今回、再配置計画案を提示されてみると、北地区でありながら本中学校区以外の塩津地区や東部地区との関連が深いと感じるところもあり、蒲郡北地区だけで判断するのではなく、塩津地区や東部地区との関連も含めて再編を検討した方が良いと感じた。